

畿央大学後援会だより

発行：畿央大学後援会
2026年3月23日
第34号



ご挨拶

畿央大学後援会 会長
村井 篤史

会員みなさまにおかれましては、平素より後援会活動に対し、ご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

春色の候、木々の緑も鮮やかさを増す季節、畿央大学をご卒業されるみなさま、保護者のみなさま誠におめでとうございます。後援会一同、みなさまがこの記念すべき日を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。みなさんにとって畿央大学はどんなところだったでしょうか。みなさんが入学された時期は、まだ、新型コロナウイルス感染症の混乱が続いており、リモートによる授業など、先行きが不透明な1年間を過ごされました。2回生になると、徐々に社会も回復し、できることが増えていったのではないのでしょうか。2回生からは畿央祭も通常通り開催でき、青春を謳歌されたことと思います。みなさんの大学生活は、そんな社会の制約がある中、時には悩み、壁にぶつかることがあったかもしれません。しかし、それらを乗り越えてきた経験こそが、ゆるぎない自信となり、これからの人生を支える真の力となるはずです。畿央大学で培ったその力を社会の様々な分野で情熱と柔軟な発想を発揮し、活躍されることを期待しています。

後援会としましては、みなさまが社会に出られても、心の故郷であり続けられるよう、みなさまの母校、畿央大学を支え、発展に寄与してまいります。時には五位堂駅からの道のりを思い出していただき、母校に足を向けていただければ幸いです。

また、ご入学されます新入生みなさま、保護者のみなさま、ご入学誠におめでとうございます。畿央大学の先生方はみなさんと一緒になって考え、悩み、喜んでくれる方々ばかりです。畿央大学で、みなさんの可能性を最大限に引き出し、大きく成長してください。

我々後援会としましては、みなさんの一助となる取組、事業を行ってまいりますとともに、建学の精神である「徳をのばす」「知をみがく」「美をつくる」の理念を具現化している畿央大学の教育に協力することで学生みなさんが健康と教育のスペシャリストとなるよう支援を行って参りたいと存じます。これからも後援会活動にみなさまの温かい支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶

学校法人冬木学園 理事長
畿央大学 学長
冬木 正彦



後援会の皆様には、日頃より本学の教育・研究活動に深いご理解と継続的なご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。この春に卒業を迎えられる皆さんが、在学中に培った学びをそれぞれの分野で生かし、急速に変化する社会の中で力を発揮されることを祈念いたします。また、これまで卒業生の成長を温かく見守ってこられた保護者の皆様に、心よりお祝いと感謝を申し上げます。

大学における学びにおいて、教養を身につけることは極めて重要です。本学では、正課の授業を通じて教養知識と専門知識・技能の双方を体系的に学ぶことができます。教養科目では、「人間と社会」「歴史と文化」「自然・科学と人間」といった分野への入門を学び、さらに「次世代型教養プログラム」では、ロボットプログラミングや社会人基礎力養成など興味を持てるテーマも提供しています。これらを出発点として、自らの関心に応じて学びを深め、広げていくには時間が必要です。大学時代に、ぜひ積極的に挑戦してください。

また、本学では数理・データサイエンス・AI（人工知能）を教養科目や専門基礎科目として学ぶ教育体制を整えています。昨年度より計画していた新学部開設に関しても、一度は足踏みを余儀なくされましたが、既に新たな構想に向けて具体的な作業を再開している状況です。本学の強みである「健康」分野と「データサイエンス」の要素を掛け合わせることで、人々の健康づくりや新たな健康ビジネスの展開に応用できるテクノロジー、ビジネスを実践的な学びの場を作り出す構想です。今後のお知らせにぜひご期待ください。

新入生の皆さんが、本学の先進的な教育環境に円滑に適応し、意欲的に学修を進められるよう、さまざまな支援の取り組みを用意しています。在学生の皆さんには、学修環境の変化を前向きに受け止め、学びをさらに深化させていくことを期待しています。

保護者の皆様におかれましては、ご子息・ご息女が大学での学びを通じて大きく成長される姿を、引き続き温かく見守っていただくとともに、学生と教職員が一体となって進める畿央大学の教育活動へのご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

ご挨拶	P 1・2	健康栄養学科	P 8
保護者懇談会	P 3	人間環境デザイン学科	P 9
保護者懇談会・講演会要旨	P 4・5	教育学部 現代教育学科	P 10
学科のページ		次世代教育センターの取り組み	P 11
健康科学部 理学療法学科	P 6	授業日カレンダー	P 12
看護医療学科	P 7		

CONTENTS



一生勉強、 一生青春

健康科学部長
健康科学研究科長
臨床細胞学別科長

植田 政嗣

畿央大学後援会の皆様には、常日頃より本学の教育と研究に対し、温かいご理解と多大なご支援をいただいていることに深く感謝申し上げます。

卒業生の方々は、社会人として就職する方、より深い学問および技術を求めて大学院に進学する方、上位のライセンスを目指して専攻科に進まれる方など、行く道は様々であります。卒業という人生の節目を迎えて希望に胸膨らませておられることと思います。

さて、「一生勉強、一生青春」とは、書家・詩人の「相田みつを」の言葉で、「生涯を通じて学びを怠らず、年齢を重ねても若々しい心と情熱を持ち続けることにより、人生を豊かに生きることができる」という意味です。すなわち、学校の勉強だけでなく、人生そのものが学びの連続であり、困難や試練も学びの機会と捉え、それを乗り越える過程で、人生がより豊かで面白くなる、という前向きな生き方を表わしていると思います。これは、学びを「自分らしく生きるための大切なプロセス」と捉え、挑戦し続ける姿勢を肯定する、人生を前向きに生きるための座右の銘として多くの人に支持されています。

卒業生の皆様は、これから職場や身の回りで起こる様々な出来事はもとより、国内外の政治経済の動向や地球規模の環境変化、さらには安全保障を含む国際情勢にも常日頃から関心を持ち、自身の感想や意見をしっかり持つ努力を続けていただきたいと思います。このように、若々しい心を維持して、何事にも興味を持ち、年齢に縛られず常に新鮮な気持ちで学び研鑽し続けることが、豊かな人間性を涵養し自身の力を育むものと信じております。

「徳をのばす」、「知をみがく」、「美をつくる」という本学の建学の精神は、まさに「生涯を通じて学びや自己研鑽を継続する姿勢」の重要性を説いたものと言えます。皆様が、畿央大学で学び得た知識と技術を十二分に生かして、常に自己を啓発し有意義な人生を送られることを心より祈念しております。

「自分の軸」 を創る

教育学部長
教育学研究科長

島 恒生



畿央大学後援会の皆様には、本学教育にいつもご理解、ご支援をいただき、ありがとうございます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

新入生の皆さん、本学への入学を心より歓迎いたします。

今、教育は、生成AIの進展、価値観の多様化、不確実性の高まりという、大きな変化の中にあります。正解を教えるのではなく、子どもたちが多くの選択肢の中から自分で判断し、選び、行動する力を育成することが求められています。

そこで教育者に必要なのは、流行に振り回されない「自分の軸」をもつことです。すべてを完璧にこなす必要はありません。何を大切にし、どこに自分の強みがあるのかを自覚していることが、子どもをはじめ、周りから信頼される教育者への第一歩となります。

卒業生の皆さんは、これから現場で多くの困難に直面するでしょう。そのとき、自らの軸と得意分野は、判断に迷った際の羅針盤となります。学び続ける姿勢を失わず、自分の教育を追求する教育者であり続けてください。

新入生の皆さんは、自分の軸を創る4年間がスタートします。色々なことにチャレンジし、多様な学びを楽しみ、自分だからこそ担える教育の形を全力で探してください。

新学習指導要領は、主体的、対話的で深い学びの「実装」を目指します。皆さんも、自分から興味、関心をもって主体的に学び、多様な他者と協働しながら、自分の軸を創り、磨いてください。そのような卒業生、入学生の皆さんを、本学教育学部は全力で応援します。頑張りましょう！

■ 建学の精神

徳をのばす

豊かな人間性、コミュニケーション力と
思いやりの心を身につける

知をみがく

科学的認識に支えられた
知性とたゆまぬ探究心を培う

美をつくる

豊かな感受性をもち
創造する力を磨く

■ 畿央大学の歩み

- 2003年 4月 畿央大学健康科学部 開学
- 2006年 4月 教育学部現代教育学科 開設
- 2007年 4月 大学院健康科学研究科 修士課程 開設
- 2008年 4月 健康科学部看護医療学科 開設
- 2009年 4月 大学院健康科学研究科 博士後期課程 開設
- 2012年 4月 助産学専攻科 開設
- 2014年 4月 大学院教育学研究科 修士課程 開設
- 2019年 4月 臨床細胞学別科 開設
- 2023年 4月 畿央大学付属広陵こども園 開設

2025年度 保護者懇談会を開催しました

今年度は11月22日（土）に保護者懇談会を開催しました。この時期に開催するのは初の試みですが、160組214名の保護者の皆様にご参加いただきました。

全体会に先立って行われた個別相談会では、希望された保護者の皆様に各担任と面談していただきました。参加された保護者の皆様からは成績や進路に関することや大学での様子などさまざまにご相談をいただき、多くの感想が寄せられています。「大学生活の事を丁寧にお話しいただき安心してきました。私たちの不安も聞いていただき感謝します。」「普段から子どもの事をよく見て下さっているのがわかりありがたいと思いました。」「先生とどっぴらんに話ができよかったです。」「子の学校での様子を知ることが出来て嬉しかったです。なかなか大学の先生とお話する機会はないと思いますので貴重なお時間だったと思います。先生のあたたかいお人柄に触れ、大学で良き出会いに感謝しています。」「学生の構内での行動をよく把握されており、就職状況等に関する指導提供を十分にしていた。質問に対しても丁寧に対応いただいた。」「オープンキャンパスの際「先生と



生徒の距離が近い」と聞いていたがその通りと安心しました。」

また昨年度に引き続き「食堂体験」を実施しました。メニューは8種類に限定しましたが、日頃学生が利用している学生食堂の雰囲気味わっていただけただけではないでしょうか。「安くておいしい、清潔感があり雰囲気も良かった。」「子どもから学食はおいしい！！と聞いていました。実際に食べて健康に気を付けてくださっていることとそしておいしいことが分かりました。」「きつねそばをいただきましたがやさしいおだしの味がとても良かったです。ICカードで購入できたのも助かりました。これからも栄養・愛情のこもったご飯をお願いします。」「大学生に戻ったような新鮮な気持ちでおいしい定食を頂きました。」

午後からは冬木記念ホールで全体会が行われました。冒頭で冬木学長と村井後援会会長からの挨拶があり、引き続いて教育学部現代教育学科の西尾祐美子講師による講演が行われました（講演要旨は4～5頁をご参照ください）。「Z世代のメンタルヘルスを理解する」をテーマに、ちょうどZ世代のお子様を持つ保護者の皆様にはたいへん興味深い内容でした。参加者からは、「とてもわかりやすく今後の子供への関わり方への参考になりました。」「今年末子が貴学に入学し家庭内での親子の関係性に少しずつ変化が生じてきました。子供の自然な心境の変化を尊重しながら、「困った。助けてほしい」と子供がSOSを出しやすい家庭環境作りができるよう参考にさせていただきます。ありがとうございます。」「大学生のメンタルヘルスについて。時々わが子ながらわからなくなることも多くあります。



このような講演は今の親にとって非常にありがたい内容でした。ありがとうございます。具体例が多くわかりやすかったです。」「言葉数の少ない1回生男子（息子）について何を考えているのかわからなくて不安があり、講演を聞か



せていただきました。関わり方のヒントをたくさん見つけることができました。対等な会話を心掛けて良い関係を保つことができれば良い方向に進みそうな気がします。」など、多くのご感想をいただき、その反響の大きさに驚きました。

全体会終了後はそれぞれの学科ごとに分かれ、学科別説明会が開催されました。各学科の教員から学修内容や普段の学生生活について説明がありました。「自分の知らないことがたくさんあり、全てのことを興味深く聴かせていただきました。日頃、感じていた疑問や不安はすいぶん解消されました。ありがとうございます。」「とても丁寧なお話を聴かせて頂き、とてもためになりました。来てよかったですと思いました。ありがとうございます。」「就職の状況がわかりやすく説明がありとても良かった。しっかりとサポートしていきます。」「子供達がどんな環境でどんなことを学んでいるのかわかってよかったですと思いました。」「沢山の教職員の方々が子どもたちのことをサポートして下さることを知ってびっくりしました。学生面談も年に2回もされていることを知り個々の学生の将来性などもしっかりと見て一緒に考えてくださっていることに気づき安心しました。これからもどうぞよろしくお願い致します。今回初めての参加でしたが、参加させて頂けて良かったです。次回も是非参加したいです。ありがとうございます。」

今回保護者懇談会で皆様から頂いたご意見を参考に、来年度の保護者懇談会がさらに充実したものとなるよう企画して参りたいと思います。

なお、来年度の保護者懇談会は2026年6月27日（土）に開催いたします。来年度もより多くの保護者の皆様のご参加をお待ちしております。

『Z世代のメンタルヘルスを理解する — 大学生の心の変化とサポート』

教育学部現代教育学科 講師 西尾 祐美子



Z世代の特徴とは

どのように今の大学生と関わればよいか、そもそも大学生はどのような事を考え、悩んでいるのか、ということを知りたいと思います。最近の若者は何を考えているのかわからない、スマホの画面ばかりを見ていて感情を表に出さない、他人と深く関わりたいがらないといったことをよく耳にします。このような事をメディアで報じられることも増えましたが、それは本当に「彼ら」「彼女ら」のせいなのでしょう。今回は現代の大学生の「こころの風景」を理解し、保護者による支援のヒントを得るということを目的にお話をさせていただきます。

まずZ世代とは、ということ。1995年以降生まれの世代をZ世代といいます。その特徴となる主な出来事を振り返ってみます。スマホが発売されSNS文化が普及し定着。リーマンショックが起り、雇用形態の多様化のきっかけとなります。東日本大震災や新型コロナウイルスの感染拡大。気候変動や、戦争、AIの普及などといった中で育ってきた世代です。

Z世代の特徴として、安心・安全といった安定性を重視する価値観が育まれてきました。次に不確実性との共存があげられます。常に不確実で変化が激しいという環境に生き安定が見えない中で、どの選択にもリスクがある、と考える特徴があります。また、Z世代の若者というのは性や雇用などについての「多様性」をとて尊重する一方、人間関係には非常に慎重です。誰も否定をしない、という価値観を持ち、SNSの利用により無意識に他者と比較してしまいがちで周回の承認を求めるといった傾向も高まっています。

心理学の観点からみた青年期

続いて、大学生の特徴を心理学の観点からお話しします。大学生は心理学における発達段階の中では青年期にあたります。青年期というのは子供から大人への位置づけです。時期としては小学校の高学年ごろ＝思春期の始めから30歳前後ということで、終期が非常にあやふやです。これはいつを

大人と設定・定義するかによって異なるためです。例えば、就職をして経済的自立をしたら大人なのか、結婚して新しい家庭を持ったら大人なのか、といった捉え方により異なるためです。

また青年期というのは、「モラトリアムの時期」といわれています。発達心理学者のエリクソンが「取り組むべきその時の発達課題を先延ばしにしている時期」と定義しました。では取り組むべき課題というのは何かというと「アイデンティティの確立」です。アイデンティティというのは自我同一性のことで、「私」に関する統合された感覚を指します。思春期から青年期の時期というのは、自分とは何なのか、自分は何者であるのか、自分はこれからどうなりたいのか、と繰り返し自問自答する中でその確立に至りますが、それまでには様々なステップがあります。

まずは「時間的な統合」です。普遍性と連続性、これまでとこれからの自分はあくまで同じ「私」だという感覚が持てるかどうかです。さらに「他者＝社会との関係における統合」です。これは多面的な自己概念です。自分として認識される「私＝"I"」と、他者に認識される「私＝"Me"」。"I"と"Me"が完全に一致するわけではありませんが、少しずつすり合わせて統合していくということが必要になります。

アイデンティティの確立とは、自問自答してすぐに答えが出るものではありません。思春期になり人間関係が少しずつ変化の中で「自分がわからない」という危機を経験し、自問自答や問い直しといったことを何度も繰り返すことによりその形成に至ります。

また、青年期においては親子の関係性も変化し、保護者の支援の役割も変化します。特に大学生に当たる青年期の今は、少しずつ親子の距離感を調整する時期となります。保護者としての関わりは助言役として、聞き・見守るという時期に差し掛かっています。そして、その後の成人期には自立を支える基地となっていきます。

大学生にとってのストレス

では次に大学生のストレス要因について、先行研究や様々な調査を踏まえてご紹介し

たいと思います。現代の大学生は、さまざまな要因から強いストレスを抱えやすい状況にあります。主な要因として、学業の負担や成績への不安、単位取得や進級へのプレッシャーが挙げられます。特に本学においては専門職の養成に特化していることもあり、このプレッシャーを感じている学生が非常に多いという印象を受けています。

続いて人間関係の悩みも大きなストレス源です。友人関係の難しさ、孤立感、恋愛トラブルなどが影響します。また、進路選択や将来に対する適性についての不安は、Z世代が不確実な社会環境の中で育ってきたことも背景にあると考えられます。

経済的な不安も深刻で、学費や生活費、アルバイトとの両立が負担となり、精神的な落ち込みと関連することが調査から示されています。これらは抑うつ傾向に関連するということも明らかになっています。さらに、家族との関係もストレス要因となり、過度な期待や干渉、家庭内の不和が自己肯定感に影響することが指摘されています。

自己理解や自己受容の難しさも大学生特有の課題です。自分らしさや生きがいが見えないという空虚感がストレスを高めることがあります。加えて睡眠不足やスマホ依存、孤独感といったものから精神的揺らぎを生じ、健康やメンタルヘルスに影響を与えています。

大学生のメンタルヘルス

大学生のメンタルヘルス不調は増加傾向にあり、多くの大学が対策を進めているものの、課題も残されています。調査では、85%の大学が「メンタルヘルスに問題を抱える学生が増えている」と回答し、文部科学省の報告では大学等の約9割が相談窓口を設置し、そのうち8割が外部専門家と連携しています。また、大学生の約30%が「死にたい」と感じた経験があるという研究結果も示されており、深刻な状況がうかがえます。

さらに、学生は家族や友人などの「身近な他者」よりも、SNSなどの「遠い他者」の方が相談しやすいと考える傾向があります。制度や体制の整備は進んでいるものの、相談窓口の利用率の低さや高い希死念慮の割合など、引き続き注意すべき課題が指摘

されています。

大学生にはさまざまな心理的問題が見られますが、代表的なものとして、まず「うつ病（抑うつ状態を含む）」があります。意欲低下・無気力・自己否定感などが特徴です。新入生や卒業年次、進路不安の強い学生に多くみられます。また「双極症」は気分の高揚と落ち込みを繰り返し、気分の波が大きいです。次に「不安症」があり、特に社交不安症では、人前で話すことへの強い恐怖や、グループワークやプレゼンテーションへの過度な不安が見られます。また、他者からの評価を過剰に気にする傾向も特徴として挙げられます。「適応障害」は、対人関係や学業など明確なストレス要因によって心身の不調が生じ、環境に適應できなくなる状態です。「物質依存」には、SNS・インターネット・ゲーム・ギャンブルなどへの依存も含まれ、睡眠不足や生活リズムの乱れ、注意力低下、不安の増大を伴います。他にも、「摂食症」では拒食と過食を繰り返し、体重増加への強い不安から無理な排出行為に至ることがあります。自傷行為は、市販薬などの過剰服用（オーバードーズ）が近年増えています。希死念慮には、慢性的な無力感・絶望感・孤独感などが背景にあり、経済的困難との関連も指摘されています。

このような不調があっても「弱さを見せられない」という意識から支援を求めらることをためらう学生が多い現状があります。深刻な悩みを抱えていても相談先がないと感じる学生は少なくなく、大学の相談機関につながる割合も高くありません。

日常の中で見られる“心のサイン”

大学生のメンタルヘルスを支えるためには、まず「心の健康＝ウェルビーイング」を理解することが必要です。ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良好な状態を指し、単に病気がないことだけを意味しません。睡眠や食事、運動といった身体面だけでなく、人間関係や社会とのつながり、経済的な安定、人生の目的意識なども心の健康に深く関わっています。心の不調は「ある・ない」で区切れるものではなく、連続的に変化するものです。心身ともに健康な段階から、注意が必要な段階、危機的な段階へと徐々に移行していきます。突然悪化するのではなく、必ず中間の段階を経るため、本人や周囲が「今の段階にいるのか」を把握することが大切です。

そのために、日常の中で見られる“心のサイン”に気づくことが重要です。例えば、急に無気力になる、家で寝てばかりいる、授業やアルバイトに行かなくなる、会話が減るといった行動面の変化は比較的気づきやすいサインです。加えて、表情が乏しい、些細なことでも怒りっぽくなる、気分の浮き

沈みが激しいなど感情面の変化も見られます。身体面では、不眠・過眠、食欲の低下、原因不明の頭痛や腹痛の繰り返しなどが初期の兆候として現れることがあります。これらのサインが複数見られる場合、心の状態が注意すべき段階に近づいている可能性があり、早めの気づきとサポートが重要になります。またサポートや支援の方法というのは、人によって悩みの種類や負荷のかけ方により異なるため、本人が必要としているサポートについて周囲が的確に把握することが不可欠となります。

信頼感を形成する コミュニケーションのあり方

悩んでいる学生・子供と関わる上でのコミュニケーションの3つの形についてご紹介します。コミュニケーションには「アグレッシブ（攻撃的）」「ノンアサーティブ（受け身的）」「アサーティブ（自己表現的）」の3種類があります。攻撃的な伝え方は相手を追い詰め、受け身的な伝え方は自分を苦しめてしまうことがあります。最も望ましいのは、相手を尊重しながら自分の気持ちを率直に伝えるコミュニケーション（＝アサーション）です。

ポイントは、「あなたはこうすべき」という言い方ではなく、「私はこう感じている」「私は心配している」というように“私”を主語にして伝えることです。この方法は、大学生の子供との関わりだけでなく、あらゆる人間関係で役立ち、相互理解や信頼関係の形成につながります。

そのためには「親のコミュニケーション力を磨く」ことも大切です。情動知能（＝EQ）といい、情動＝心理面の知能を指します。仕事や家庭といった環境でも変わってくるかと思いますが、本人がそれを自覚し、自分のコミュニケーション力や他者との関係の作り方を振り返るということも必要です。

そして先ほど申しましたアサーティブなコミュニケーションの具体的な関わり方の一つが「共感的に聴く」ということです。まずはその人の気持ちを受け止めることが大切です。否定や説得ではなく、話を遮らずに聞き出すことが必要です。そうすることで信頼感の形成に繋がります。また、自分の気持ちに気付くために感情に名前を付けて言語化を助けることも大切です。こうした認知的・情動的共感の両立が相手の安心感につながります。

もう一つが自己効力感です。「自分は課題をうまく遂行できる」という確信のことで、人を前向きに動かす力になります。これを育むためには、まず過去の成功体験を振り返らせ、「前も乗り越えられた」という感覚を思い出させることが有効です。また、最終目標を細かいステップに分けて達成しやす

くし、小さな成功を積み重ねることも大切です。さらに、過程を評価する肯定的なフィードバックを行い、「その人自身の成長」に目を向けて声を掛けることが重要です。

保護者自身のケア

子供を支えるためには保護者自身のケアも重要です。自分の状態を自覚する力は他者を理解する基盤にもなります。子供の問題は親の育て方や環境のせいとは限らず、特に成人した子供の問題は必ずしも親の責任ではありません。保護者自身も支援を受けたり、適度に自分を甘やかしたりすることも大切です。

また、子育て後に生じる「空の巣症候群」というものがあります。子供が家を離れた際に喪失感や孤独感、虚無感などを生じます。特に子供との心理的距離が近い場合に起こりやすいものとなります。症状としては、感情面の寂しさ・抑うつ・不安、身体面の不眠や頭痛、行動面の無気力、認知面の自己価値の喪失感などがみられます。

空の巣症候群に陥ったり、その兆候がある場合には、自身のセルフケアが重要です。セルフケアの柱として、まず十分な休養をとり心身を回復させることが挙げられます。次に、配偶者・友人・同僚・地域活動などを通して他者とのつながりを作ること。また、日々の行動に意味や価値を見出すこと、さらに学び直しなど自己成長の機会を持つことも大切です。親が元気であることは子供のためにも重要で、親としての役割を終えた後は、自分の人生を取り戻し、これまで犠牲にしてきたものを回復しながら新たなスタートを切ることが大切です。

畿央大学では、学生支援センターや健康支援センター、学生相談室「ここらぼ」などが学生の心身のサポートを行っています。また、ひとりの学生を担任教員とキャリアサポート担当の二名が支えるダブル担任制度により、進路・大学生活・学業などを幅広くサポートできる体制が整っています。大学での学びについては大学側が全力で支援いたしますので、ご不明な点等がありましたらお気軽にお問い合わせいただければと思います。

西尾 祐美子

畿央大学教育学部現代教育学科 講師

臨床心理学、発達心理学、特別支援教育を専門とする。神戸大学大学院にて学術の博士号を取得し、福祉施設での療育支援員や他大学での講師の経験を経て2019年に畿央大学教育学部現代教育学科の講師に着任。臨床心理士、公認心理師としての経験も活かしながら、「臨床心理学」、「カウンセリング」、「心理統計学」や「心理学基礎実験」などの授業を担当。

メッセージ



健康科学部
理学療法学科
学科長
庄本 康治

保護者の皆さまには日頃より理学療法学科の運営・教育にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。2025年から、卒業生を含めた学年を跨ぐ交流イベントを増加し、教育

面のみならず、様々な面で良い影響があったと感じていますが、今後も内容・方法を検討して継続実施していきます。

学外実習では、1回生「チーム医療ふれあい実習」、2回生「通所・訪問リハビリテーション実習」、3回生「評価実習」、4回生「総合臨床実習」に参加し、理学療法士の魅力と難しさを感じることが出来たようです。特に3、4回生は、自分自身の進路決定のために学外実習での経験が大きな影響を与えたようです。

卒業生を講師にした「やさしさをチカラに変える次世代リーダー育成セミナー」では、「理学療法士の未来と海外挑戦 中国で広がる可能性を考える」、「チーム医療のリ

アル 専門性の分化と“聴かれない声”」、「子どもと家族の“できた”を支える理学療法士の役割 児童発達支援・放課後等デイサービスでの働き方」、「理学療法士としての新しい選択肢 卒業後すぐに企業へ」の4講演を実施し、全回生を通して活発な質疑応答が行われました。

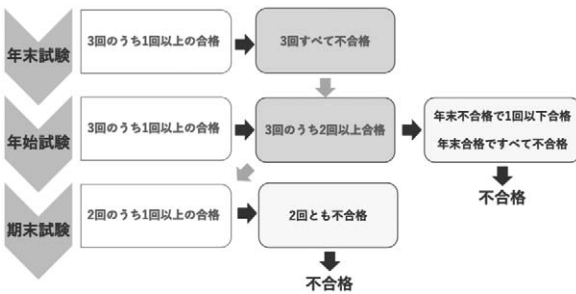
2026年には診療報酬制度の改定、医療職の待遇が改善される予定ですが、今後の医療・福祉動向なども今まで以上に学生さんに説明したいと思っています。理学療法学科教員一同、全力で学生さんをサポートしていきますので、引き続きご支援とご理解のほどどうぞよろしくお願いいたします。

国家試験への取り組み

理学療法士国家試験は、毎年1回、2月に実施され、3月に合格発表があります。試験時間は午前・午後ともに2時間40分ずつであり、問題は一般問題(解剖学・生理学などの共通問題)と実地問題(いわゆる専門問題)から構成されます。280点満点で、168点以上獲得し、さらに、実践的な特定の問題を一定点数取ることが合格条件になります。早い人では、4回生夏季から受験

勉強を開始しますが、スタートダッシュが遅れて点数が伸びない人が例年散見されます。また、日頃の定期試験は国家試験と類似

図1 理学療法総合演習での単位認定手続き

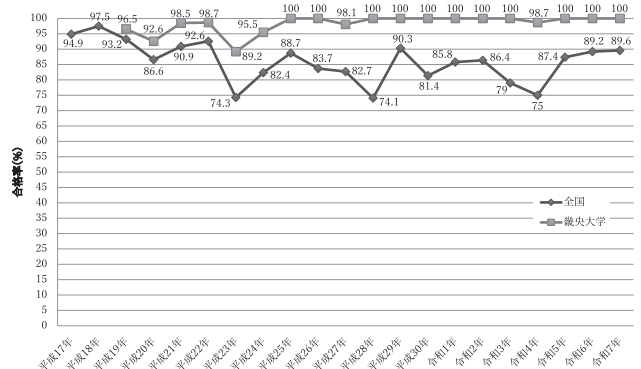


していて、定期試験結果と国家試験結果は高い相関を呈します。4回生後期開講の「理学療法総合演習」で、模擬試験や個別指導を頻回に実施し、この科目を合格して国家試験受験資格を獲得可能になりますが、図1のような流れで実施しています。

ところで、本原稿を執筆している中、ある業者の全国模擬試験があり、全国で4745名受験し、

本学学生は主席が1名、10位までに2名、20位までに2名、40位までに4名と良い結果を残しました。「理学療法総合演習」の単位を修得出来れば、国家試験に合格可能である事は、図2に示した本学合格率推移を見ても明らかです。過去10年間では、684名受験して683名合格しています。最後まで頑張るように、理学療法学科ゼミ担任中心にサポートしたいと思っています。

図2 国家試験合格率推移(全国・畿央大学)



令和7年度 卒業研究発表会を開催～学生レポート

3年次前期の「理学療法研究法」で論文の探し方や読み方を学び、その後、先生や興味のある分野などから学生それぞれが考え、希望のゼミを選択しました。後期では「理学療法研究法演習」にて本格的なゼミ活動を開始し、先生方からアドバイスをいただきながら、自分たちの研究のテーマを決定していきました。



今年度は16ゼミから全39演題の発表が行われ、みなさん、分かりやすい発表と積極的な質疑応答を行っていました。発表スライドと発表者による説明、質疑応答から各ゼミがどのような研究を行ったのか、また、どのようにこれから改善していけばよいのかを明確にすることができ、新たな視点と知識を得ることができたと感じました。質疑応答では、3回生

からも積極的に意見や質問をいただき、学年を超えて高め合うことができました。最後に、ご協力いただきました方々並びにご指導いただきました先生方に厚く御礼申し上げます。

理学療法学科 4回生
A・T、K・M、K・Y

メッセージ



健康科学部
看護医療学科
学科長
河野 由美

後援会の皆様には、いつも本学の教育にご理解と多大なご協力を賜り、心より御礼申し上げます。近年、国の指針で医療DX（デジタルトランスフォーメーション）が急速に

すすめられております。看護教育においても前からDXの推進は指摘されており、医療系であっても情報通信技術に関するスキルが求められる時代となっております。本学では文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」に認定された「情報処理演習」を必修科目として設定しており、時代の要請に応じた教育を実施しております。また、本年度に新しくシミュレーションルームの開設を行い、充実した看護教育環境になるよう整備をすすめているところでございます。さて、2026年度には日本看護学教育評価機構で看護学教育に関する分野別評価の受審を予定しております。奈良県内の大学ではまだ適合認定された大

学はなくハードルは高いですが、学科教員が一丸となって受審準備をすすめております。準備を通して、私どもの看護教育に不備・不足はないかを見直すことができ、良い機会になっております。不備な面は改善策をこうじ、良い面である日頃から熱意をもって丁寧に学生指導・教育を行っていることを、アピールできればと思っております。

今後とも建学の精神を礎としながらも高い専門性と人間性を備えて、研鑽し続ける専門職の育成を目指し、尽力していきたいと存じます。引き続き、皆様のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

国家試験への取り組み

看護医療学科は看護師国家試験受験を過去14回経験してきました。直近の5年間の看護師と保健師の国家試験合格者を以下に示しましたが、昨年実施された国家試験でも、本校は看護師・保健師・助産師の3つの試験合格率は100%でした。関西の私立大学において、5年連続で3職種全て100%であったのは本学のみと思われます。

就職に関しましては、本年度も就職を希望した学生全員が早い時期に就職内定を得ており、就職率は100%です。本学では就職先は学生の希望を最優先にしており、学生は自由に就職先を選んでおります。そのような状況で、多くの学生が実習させて頂いた病院の丁寧な指導や看護に魅力を感じ、

自主的に実習病院に就職を希望しています。本年度卒業予定学生の上位5位の就職先を以下に示しますが、いずれも実習でお世話になった病院で、全体の42%がこちらの病院に就職します。この五つの病院以外にも僅差で多くの学生が実習病院に就職しております。学生は実習で嫌な思い、辛い思いをすると就職先には選びませんので、こうした就職状況を見ても、如何に学生が実習先であたたかく対応頂いているかが伺えると思います。そして、他校等では就職が心配されている保健師ですが、本学では本年度保健師就職を希望した8名全員が保健師として就職内定を得ております。今後も学生の夢がかなえられるよう、尽力してい

たいと存じます。引き続き、皆様のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

国家試験合格率

	看護師合格率		保健師合格率	
	本学	全国平均	本学	全国平均
2021年3月卒	100%	95%	100%	97%
2022年3月卒	100%	97%	100%	93%
2023年3月卒	100%	96%	100%	97%
2024年3月卒	100%	93%	100%	98%
2025年3月卒	100%	96%	100%	96%

2026年3月卒業予定学生の主な就職先病院名

大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター
大和高田市立病院
奈良県立医科大学附属病院
大阪市立総合医療センター
市立東大阪医療センター

学生の卒業研究が国際学会発表に採択されました

看護医療学科の精神看護学研究室紅林ゼミの4年生Hさんが、シンガポールで開催の国際学会（第29回東アジア看護学研究者フォーラム）での研究発表に採択されるという、大変喜ばしい成果を収めました。研究テーマは、精神看護学実習でHさん自身の気づきを出発点とし、「人は困難な体験を経て、なぜ人間の成長をできるのか」という素朴な疑問を、学術的な研究課題へと丁寧に磨きました。最終的に、親への愛着パターンと心的外傷後成長との関連という、世界でも珍しいテーマにしました。先行研究を体系的に整理するスコープングレビューと呼ばれる手法で取り組み、この結果、今後の看護実践への示唆を得られました。

この学会では不採択となる演題も少なくない中での採択であり、Hさんの粘り強い探究心と高い完成度が評価された結果といえます。卒業研究の提出を終えた後も、本人の強い意欲により国際学会への挑戦を決意し、指導教員とともに原稿の推敲を重ねてきました。国試勉強と並行するなかでも最後まで

やり遂げた姿勢は、「知をみがき」、「徳をのびし」、より良いケアの示唆を得る「美をつくる」という、本学が育成を目指す看護職像を体現してくれたと思います。

(Y.K)

結言

- 死を連想するような出来事に遭遇すると心的外傷後ストレス障害(PTSD)
- 長期間を経て人間的な成長をもたらす心的外傷後成長(PTG)も報告されるようになった
- PTGの促進要因の1つとして幼少期の愛着に着目

The abstract includes the following sections:

- Introduction & Objectives:** Discusses the association between post-traumatic growth (PTG) and parental attachment styles, noting that while secure attachment is generally associated with positive outcomes, the relationship with PTG is less clear.
- Methods:** A scoping review of 23 studies published between 2000 and 2023. The search included databases like PsycINFO, CINAHL, and PubMed. Inclusion criteria focused on studies examining the relationship between attachment styles and PTG in clinical populations.
- Results:** Three studies met the inclusion criteria for a meta-analysis. Two studies showed that secure attachment positively predicted PTG. The subjects of these two studies were war survivors and COVID-19 patients. On the other hand, the association did not be observed among a study investigating patients with psychosis.
- Conclusion and Implications:** Among individuals without psychosis, secure attachment when they were children tended to promote PTG. However, the relationship failed to be found especially among individuals with psychosis. This may be related to losing association and unique interpersonal relationship styles in psychosis, especially schizophrenia. Future research on relationship styles and PTG should analyze subjects separately based on the presence or absence of psychosis.

メッセージ



健康科学部
健康栄養学科
学科長
栢野 新市

保護者の皆様には、日頃より本学ならびに健康栄養学科の教育活動に温かいご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。
2025年度もいよいよ終わりが近づいてま

いりました。今年度も社会情勢が落ち着かず、不安を感じる場面も多かったことと思います。一方で、学生たちが元気に学び、成長していく姿に触れるたび、私たち教員も励まされながら一年を過ごしてきました。年度締めくくりを迎え、学生たちの様子も学年ごとに大きく異なります。一回生は大学生活にもすっかり慣れ、友人たちと笑顔で過ごす姿が微笑ましく感じられます。二回生はクラスのつながりが一段と深まり、学びにも主体的に取り組む姿が頼もしい限りです。三回生は後期の実験・実習に加え、就職活動への意識も高まり、緊張感のある日々の中でも前向きに努力を続けています。そして四回生は、目前に迫った国家試験に

向けて緊張しながらも、最後まで粘り強く学習に励んでいます。多くの学生が進路を確定させ、国家試験に集中して取り組む姿は非常に心強く映ります。
この後援会だよりが保護者の皆様のお手元に届く頃には、国家試験も終了し、あとは合格発表を待つばかりとなっています。四年間努力を重ねてきた学生たちに、良い知らせが届くことを心より願っております。そして春から新たな生活を迎える四回生には、本学で培った知識と経験を糧に、社会のさまざまな場で活躍してくれることを大いに期待しています。

国家試験への取り組み

管理栄養士国家試験は、4年間の学修成果が総合的に問われる試験であり、出題範囲は専門科目のほぼ全領域に及びます。試験は全200問で構成され、合格基準は総合点の60%以上とされています。近年は出題内容の高度化が進んでおり、全国平均合格率(新卒)は、2022年度までは90%を超えて推移していましたが、2025年の全国平均合格



率(新卒)は80.1%まで低下しています。第40回管理栄養士国家試験は、3月1日(日)に実施され、合格発表は3月27日(金)です。このように全国的に厳しさが増す中にも、本学では新卒者の合格率が全国平均を上回る状況を継続しています。2025年の本学における現役合格率は90.1%であり、さらに過去10年間の現役合格率の平均は96.1%と、安定した成果を挙げてきました。これらの実績は、学生一人ひとりの主体的な努力に加えて、1回生からの段階的な学修の積み重ねと、計画的な国家試験対策が有効に機能している結果といえます。
健康栄養学科では、今年度も万全の体制で国家試験対策を実施します。3回生後期には模擬試験を通して学習状況を客観的に確認し、今後の課題を明確にします。4回生では演習形式の授業を通年で言い、1年

間に7回以上の模擬試験を受験します。繰り返しの演習と自己分析を通じて、実力の定着と底上げを図ります。さらに、希望者は学外で実施される国家試験対策講習を受講することも可能です。国家試験では、特定分野に偏らず、幅広い領域をバランスよく理解することが求められます。分野ごとの理解度には個人差があるため、自身の課題を把握したうえで、計画的に学習を進める姿勢が重要です。特に4回生は、就職活動や臨地実習と並行して学習を進める必要があるため、早い段階からの準備が合否を左右します。
本学では、教職員が連携しながら、学生一人ひとりの状況に応じた指導と支援を行っています。学生が安心して国家試験に臨めるよう、引き続き全力で取り組んでまいります。保護者の皆様には、これまで同様、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【畿央大学×家族亭】香芝サービスエリア「新メニュー開発コンテスト」を開催!

畿央大学と家族亭の連携事業「メニュー開発プロジェクト」の第1弾「香芝サービスエリア新メニュー開発コンテスト」が開催されました。このプロジェクトの目的は、次の三点です。
・ 畿央大学と家族亭がそれぞれの強みを活かし、共同で食事メニューの開発を行い、サービスエリアに来られるお客様に奈良の魅力を発信し、地域経済活性化をめざす。
・ 香芝SA上下線フードコートで、共同開発したメニューを販売することにより、県外から来られた方々に奈良の



魅力をアピールする。
・ プロジェクトを通じて畿央大学が大学で学んだ知識を活かし、限定された条件の中でメニュー

の企画・開発を行うことにより実践力を身につけ、主体性、協調性、チャレンジ精神、コミュニケーション能力をみがく機会の場とする。
3回生12名が去年の3月から試作を重ね、7種類の丼メニューを考案し、コンテストに参加しました。グランプリを受賞した学生は、調理法と見た目にも独自性を持たせる工夫や、調理時間、味の変化など、味以外で他と差をつけられるような丼を考案しました。本コンテストでグランプリ・準グランプリを受賞した丼メニューは、香芝サービスエリア上下線のフードコートで商品化され、期間限定で販売されました。
地域連携担当

【グランプリ】「大和ポークと根菜の彩り丼」



【準グランプリ】「ご飯泥棒!ヤマトポークのジューシー角煮丼」



メッセージ



健康科学部
人間環境デザイン学科
学科長
東 実千代

日頃より本学科の教育活動に温かいご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

2025年度は、新たに設計の実務経験が豊富な教員1名と、本学卒業生の助手1名を

迎え、より充実した指導体制を整えることができました。

特徴的な教育活動の一例に、2019年度に開始した台湾の大学との国際交流が挙げられます。2025年度の活動として、5月には相互連携協定を締結している明日香村をフィールドにしたワークショップの開催、1月には日台で共通の木造設計課題に取り組んだ成果発表会を実施しました。2026年5月には台湾に出向き、現地でのワークショップ開催を予定しています。また、2・3回生合同のプロジェクトゼミでは、学年の枠を超えたチームを編成し、建築・インテリア・アパレルの各分野において、人と環境の関係をデザインの視点から捉えて深く考察する力を養

い、実践的な活動を継続しています。このような学びの集大成が4回生で取り組む卒業研究です。現在は年度末に開催する卒業研究作品展に向けたブラッシュアップ作業中で、教員一同、思い残すことなくやり遂げて卒業してほしいと見守っています。

本学科は、学生と教員がともに学び、成長する風土を大切にしてきました。この伝統をさらに発展させ、学生一人ひとりが自らの能力を最大限に伸ばすことのできる環境づくりに、引き続き尽力してまいります。

今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

国際合同設計演習「2026年国際木造建築設計プログラム」を実施しました

昨年度より本学科が準備を進めてきた国際合同設計演習が、「2026年国際木造建築設計プログラム」として畿央大学キャンパスにて実現しました。2026年1月29日に、台



湾から国立台湾科技大学および国立高雄大学の学生17名・教員4名が来学し、本学科の学生20名・教員6名とあわせて総勢47名が参加しました。

本演習では、木造在来工法の戸建住宅を共通課題とし、意匠設計に加えて構造計画や1/30スケール模型制作にも取り組み、木造建築への理解を深めました。午前中の交流会では、学生たちは提案模型を囲み、設計を通じた交流が展開されました。その後、台湾および本学科の教員によるレクチャーを通して、互いの木造建築設計について学

びを深めました。午後の交流講評会では、学生たちが英語で設計提案を発表し、活発な質疑応答が行われました。寒い時期にもかかわらず、会場は熱意あふれる雰囲気になりました。講評会後には表彰式が行われ、学生同士が食事を楽しみながら模型作品について語り合う姿が見られました。翌日は大和民俗公園の古民家と法隆寺、慈光院を見学し、歴史的木造建築を実地で学びました。

今回の貴重な交流経験は、学生の成長に大きく寄与するものと期待されます。

学生が各種コンペやコンテストで続々受賞！

近畿学生住宅大賞「企業賞」

近畿建築士会協会主催第5回「近畿学生住宅大賞」において、吉村ゼミ2回生のTさんが応募した、「と、と、と、」が「企業賞」を受賞しました！コンセプトは「自然」と「堪能し調和する」。わたしと、大切な人と、木々と、太陽と…。本学では昨年度に続き2年連続での近畿学生住宅大賞「企業賞」受賞となります。



築56年の住宅地建替えコンペ「審査員特別賞」

大阪府富田林市にある築56年の住宅地を対象とした「大阪・金剛第三住宅建て替えデザイン構想コンペティション」で、吉永ゼミの3・4回生が「審査員特別賞」を受賞しました！既存を活かして減築して耐震性を向上させて、減築の廃材も有効活用する提案です。建て替えが求められた中、特異な計画案でしたが、地域の問題やこれからの社会をメンバーで熟考した計画案を提案することができました。



スポーツ・健康まちづくりデザイン 学生コンペティション

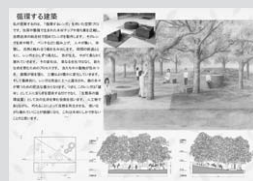
2025デザイン部門「優秀賞」

陳ゼミ2回生を中心としたチームでは、スポーツ庁主催「スポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティション2025」に参加し、「真美ヶ丘ピンポン commons ~ 大学キャンパスを地域に開放する屋外卓球台の交流場所の創出」という作品でデザイン部門「優秀賞」を受賞しました。学部生だけのチームは畿央大学チームだけ、他のチームは大学院生のいるチームでしたが、健闘して堂々と作品を発表しました。



第9回Woodyコンテスト（京都府主催）「佳作」

京都府内の森林資源の特性を活かした建築や家具のアイデアを募集するコンテストに前川ゼミ3回生のSさんが「循環する建築」で「佳作」を受賞しました。伐採や整備で生まれた木材チップや落ち葉を圧縮し、自然由来の結合材で固めたレンガによって新たな屋外空間をつくり出す提案です。人工物でありながら、朽ちることによって自然を再生させ、使いながら壊れていくことが価値になっていくという、木材にしかできない提案となっています。



メッセージ



教育学部
現代教育学科
学科長
竹下 幸男

後援会の皆様には、いつもご支援ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

2025年度も、終わりに近づきました。4年間、畿央大学で頑張ってくれた卒業生を

送り出し、新たな入学生を迎える季節が迫っています。この原稿を書いている現在、4回生は卒業論文を提出し終えてほっと一息をついているところです。3回生は、いよいよ間近に迫った卒業後の夢の実現に向け意欲を高めています。2回生は、前倒しされた教員採用試験の準備や実習に備えています。1回生は、すっかり慣れた大学生活を楽しみながらも、初めての实習やより専門的な講義に触れ、入学時の初心を思い出しているところです。

現代教育学科では、来年度から新しく数学教育コースが開設されます。中高数学免許はこれまでも取得できましたが、その免許を目指す学生向けのコースが新設されま

す。他に、コースの枠を超えて、自分が目指す理想の将来像や身に付けたい知識や経験を学ぶことのできる「ユニット制」や新たな海外研修プログラム「幼児教育海外セミナー」も始まります。いずれも新入学生対象の取り組みですが、こういった新しい取り組みは、在学生にとっても大きな刺激となり、新たな学びの機会となります。

新たな挑戦を続けつつ、一人一人の学生が充実した大学生活を送り、理想の自分に近づくためのサポートを全教職員が全力で続けて参ります。後援会の皆様には引き続き変わらぬご支援を賜りますよう改めてお願い申し上げます。

みんなで健闘した採用試験

17期生も健闘してくれました。

公立小学校教諭の現役合格者は49名（合格率72.1%）で、現役合格率は7年連続で7割を超えています。奈良県は13名、大阪府・大阪市・堺市では32名の合格者となりました。

難関の養護教諭は、現役合格者が過去2番目に多い10名（合格率43.5%）となりました。



した。特別支援学校教諭は4名が合格（合格率80.0%）と、毎年安定した合格率となっています。中・高教諭（英語）は合格者3名（合格率75.0%）で、3年連続の全員合格は逃したものの、高い合格率です。大阪府と大阪市での合格です。

公立保育所・幼稚園教諭は25名全員が合格し、4年連続で全員合格、8年連続で9割以上という素晴らしい合格率を維持してくれています。

今年度も17期生と教採・公務員対策室、学部教員が丸となり、みんなで生み出した大きな成果です。何より、多くの学生が希望する進路に進めたことをうれしく思います。以下は卒業を迎えた学生の声です。

「同じ夢をもつ友達に会えて、ともに学び続けることができたのが、自分にとって



の大切な思い出になりました。」「履修していた授業が多く、課題に追われたりしんどい時期もありましたが、友達と一緒に課題をする時間も今振り返ると楽しかったなと思います。」「『チーム畿央』として合格という同じ目標を持つ友人と一緒に大学に残って教え合ったり、励まし合ったりすることで、心の支えとしていました。』

写真は4回生対象の「プレティーチャーズガイダンス」と夏の「4回生幼保音楽実技対策」からです。

母校のルーツを辿り、未来の教育者を育む「教育史」

1回生対象「教育史」の授業は、未来の教育者を目指す学生たちが、歴史を通じて教育の本質を考える場です。FD活動の一環で教職員にも公開された回では、本学の創設者・冬木智子先生の歩みを辿る「大学の歴史」をテーマに講義を行いました。

教材は冬木先生の回想録『生きる』です。当時のジェンダー規範「良妻賢母思想」や高等女学校の制度を、文献と照らし合わせ考察しました。単なる知識の伝達ではなく、回想録を史料として読み解く「研究の疑似体験」を取り入れたのが特

徴です。100名を超えていても、学生が主体的に学べるよう工夫しています。

学生たちの「歴史＝暗記」という苦手意識を払拭するため、授業では対話を重視します。本学にまつわるクイズ「KIO検定」で関心を引き、グループ学習では、コースの枠を超えて学生同士が交流できるようにしました。異なる進路を目指す仲間との議論は、多角的な視点を与えてくれます。学生たちは冬木先生が学ばれた時代のカリキュラムを分析し、熱心に発表を行ってくれました。

私がこのテーマを選んだのは、女子教育史という専門領域の視点から、学生たちに「自分たちが学ぶ大学のルーツ」を知ってもらい、母校への帰属意識を高めてほしいと願ったからです。学生たちが母校の精神を胸に輝けるよう、これからも全力を尽くしてまいります。

現代教育学科 教員 N・M



次世代教育センターの取り組み ～「社会で活躍できる人材」をめざして～

国家資格取得、教員採用試験合格で終わらない、さらにその先を見据えて社会で活躍していくために、次世代教育センターでは多様な講座を提供しています。先行きが不透明で将来の予測が困難なVUCA時代の現代、仕事で求められる能力も変わりつつあり、問題発見力や的確な予測、新たなモノ・サービス等を作り出す能力等がより求められると「未来人材ビジョン（経済産業省）」にも記載されています。

次世代教育センターには、在学中の「いま」からできる講座が多数あります。実践的なプログラムを通して、コミュニケーション力や思考力、行動力を学び、その人自身が持つ人間力をさらに高めていくことができます。将来はもちろん、在学中も活かせるスキルを獲得できる機会となりますので、ぜひ保護者の皆様からも講座への参加のお声がけをいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

＼畿央生ならではの社会人基礎力を養える／

次世代教育センターの 「K・I・Oプログラム」

Knowledge
学科の学びだけじゃない、幅広い知識を修得

Ict
できると差がつく、ITスキルを修得

Organization
多様な人と共に社会(組織)で活躍できるスキルを修得

- ・社会に出たときに自分の助けになると思った。
- ・Excelを使いこなせず作業に時間がかかっているの、作業効率を上げるために学びたい。
- ・養護教諭を目指すなら、特にExcelは必要だと感じた。
- ・卒研でExcelを使用するが効率よく研究を進めたい。

Excelスキルアップ

傾聴力養成

- ・将来教員として社会に出る上でも、専門的な知識と実践的な技術を身に付けたいと思った。
- ・普段の友達とのやりとりでも、もっとうまく話せるようになりたい。

受講しようと思ったのは、なぜ？ (受講生アンケートより抜粋)

- ・これまでずっと人前で話すことに苦勞してきた。
- ・就活を見据えた準備をしておきたい。
- ・授業でも役立つそうだった。
- ・相手に伝わるスキルを身につけたい。

**コミュニケーション力養成
プレゼンテーション力養成**

文章読解・作成能力検定

- ・自分の考えをうまく表現できるようになりたい。
- ・授業で学んだことを検定に活かしたい。

- ・リーダーの立場になるのが苦手。
- ・中高のクラブでリーダーを任せられた時、自分の力のなさを感じて悔しい思いをした。

リーダーシップ力養成

▼今年度（2025年度）に開催した講座一覧

2026年度プログラムは、決定次第、次世代教育センターHPや大学メール等で学生の皆さんへ案内していきます。

2025プログラムスケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
1回生	大学貸与PCの基本講座 1回生のうちに知っておきたいパソコンの操作 (7月15日・16日)						
2回生		アンケート集計とグラフ作成講座 (8月7日)	コミュニケーション力養成講座 (9月17日)	傾聴力養成講座 (9月18日)	リーダーシップ力養成講座 (9月19日)		
3回生					問題解決力養成講座 (9月19日)	ライフプランニング講座 (11月29日)	
4回生					卒研のためのExcel統計講座 (10月9日)	文章読解・作成能力検定講座 (12月6日・13日)	ひととAIのかんちがいと共生 (12月25日)
							ロボットを使ったプログラミング講座 (2月10日)

テクニカルスキル

ヒューマンスキル

幅広い分野への知識

募集開始時に大学メールや次世代教育センターHPでお知らせします。

授業日カレンダー

大学での授業は、前期・後期各15回行われます。①～⑯は授業曜日ごとの授業週数を表わしています。⑳週は最終授業期間は、定期試験、平常授業、補講が組まれます。通常の時間割と異なることもありますので、この期間の時間割は、前期・後期とも試験開始の2週間前までに掲示します。
 注：補講は通常の授業曜日・時限に関わりなく6時限目や土曜日、祝日などに実施される場合があります。
 注：休業日（日曜日・授業のない祝日）の事務取扱は行っておりません。
 注：※印のついた日はキャンパスに入ることできません。
 ■は授業期間外です（ただし集中講義等は行われることがあります）。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1水		1金④	1月⑦	1水⑩	1土⑬	1火⑮	1木⑰	1日	1火⑱	1金元日 ※	1月⑮	1月
2木	2土④	2火⑦	2木⑩	2日	2日	2水	2金②	2月⑤	2水⑩	2土 ※	2火⑮	2火
3金	3日	3憲法記念日	3水⑦	3金⑩	3月⑬	3木	3土②	3火⑥	3木⑩	3日 ※	3水⑮	3水
4土	4月みどりの日	4木⑧	4土⑪	4火⑭	4火⑮	4金	4日	4水⑥	4金⑩	4月	4木⑮	4木
5日	5火④	5火⑦	5金⑩	5日	5水⑬	5土	5月②	5木⑥	5土⑩	5火⑬	5金⑮	5金
6月	6水	6水振替休日	6土⑨	6月⑫	6木⑮	6日	6火②	6金⑥	6日	6水⑬	6土⑮	6土
7火	7木④	7日	7火⑦	7火⑩	7金	7月	7水②	7土⑥	7月⑩	7木⑬	7日	7日
8水	8金⑤	8月⑧	8水⑪	8水⑭	8土	8火	8木②	8日	8火⑩	8金⑬	8月⑮	8月
9木	9土⑤	9火⑧	9木⑪	9木⑭	9日	9水	9金③	9月⑥	9水⑩	9土⑬	9火⑮	9火
10金	① 授業開始	10日	10水⑧	10金 補講日	10月	10木	10土③	10火⑦	10木⑩	10日	10水	10水 一般入試
11土	①	11月④	11木 補講日	11土⑬	11火 山の日	11金	11日	11水⑦	11金⑩	11月 成人の日	11木 建国記念の日	11木
12日	12火④	12金⑦	12日	12日	12水	12土	12月③	12木⑦	12土⑩	12火⑭	12金	12金
13月	①	13水④	13土⑦	13月⑩	13木	13日	13火③	13金⑦	13日	13水⑭	13土	13土
14火	①	14木⑤	14日	14火⑩	14金	14月	14水③	14土⑦	14月⑩	14木⑭	14日	14日
15水	①	15金⑥	15月⑨	15水⑬	15土	15火	15木③	15日 公募推薦入試	15火⑩	15金	15月	15月
16木	①	16土⑥	16火⑨	16木⑬	16日	16水	16金④	16月⑦	16水⑩	16土	16火	16火
17金	②	17日	17水⑨	17金⑭	17月	17木 前期卒業式	17土④	17火⑧	17木⑩	17日	17水	17水
18土	②	18月⑤	18木⑨	18土⑭	18火	18金	18日	18火⑧	18金⑩	18月⑬	18木	18木 卒業式
19日	19火⑤	19金⑧	19日	19日	19水	19土	19月④	19木⑧	19土⑩	19火⑮	19金	19金
20月	②	20水⑤	20土⑧	20月⑭	20木	20日	20火④	20金⑧	20日	20水 補講日	20土	20土
21火	②	21木⑥	21日	21火⑭	21金	21月 敬老の日	21水④	21土⑧	21月⑩	21木 補講日	21日	21日 春分の日
22水	②	22金⑦	22月⑩	22水⑭	22土	22火 国民の休日	22木④	22日 指定校入試	22火 補講日	22金⑭	22月	22月 振替休日
23木	②	23土⑦	23水⑩	23木⑭	23日	23水 秋分の日	23金 歳央祭準備	23月⑧	23水 補講日	23土⑭	23火 天皇誕生日	23火 後期成績・前期学納金振込票発送予定
24金	③	24日	24水⑩	24金⑮	24月	24木	24土 歳央祭	24火⑨	24木	24日 一般入試 社会人入試	24水	24水
25土	③	25月⑥	25木⑩	25土⑮	25火	25金 ① 授業開始	25日 歳央祭	25水⑨	25金	25月⑭	25木	25木
26日	26火⑥	26金⑨	26日	26日	26水	26土①	26月⑤	26木⑨	26土	26火 休講日 (一般入試)	26金	26金
27月	③	27水⑥	27土 補講日 保護者懇談会	27月⑮	27木	27日	27火⑤	27金⑨	27日	27水⑮	27土	27土
28火	③	28木⑦	28日	28火⑮	28金	28月①	28水⑤	28土⑨	28月	28木⑮	28日	28日
29水	③	29金⑧	29月⑪	29水⑮	29土	29火①	29月⑤	29日	29火	※ 29金⑮	29月	29月
30木	③	30土⑧	30火⑪	30木⑮	30日	30水①	30金⑤	30月⑨	30水	※ 30土⑮	30火	30火
	31日			31金⑮	31月		31土⑤		31木	※ 31日 大学院入試		31水

冬木学園へのご支援のお願い

冬木学園では、教育・研究環境の整備及び基金の充実を目的とした募金へのご協力を広く皆様方をお願いしております。

本学園の取り組みをご理解いただき、格別のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

◎税額控除の適用について

本学園は、寄付税額控除制度の適用を受けることのできる学校法人として文部科学大臣より証明されています。個人の方が支出した寄付金について、確定申告時に税額控除制度の適用を選択した場合、以下により算出された額が所得税額から控除されます。

$$(\text{税額控除対象寄付金}(\ast 1) - 2,000\text{円}) \times 40\% = \text{控除対象額}(\ast 2)$$

※1 総所得額の40%まで ※2 所得税額の25%まで

◎寄付のお申込方法

法人事務局総務部(担当：竹本・諸多)にお問い合わせ下さい。

TEL：0745-54-1602 E-mail：soumu@kio.ac.jp

今年は、6/27(土)に
開催します!!

2026年度保護者懇談会を冬木記念ホールにて開催いたします。午前は「個別相談会」、午後は「全体会」「学科別説明会」「懇親会(茶話会)」など様々なプログラムを企画しています。詳細は、5月頃にご案内いたします。ご予定いただき是非ご参加ください。